

第三者評価結果シート（児童養護施設 太陽寮）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人ローカルネット日本評価支援機構

②評価調査者研修修了番号

SK15136

13-A011

③施設名等

名称：	太陽寮
施設長氏名：	戸泉 茂樹
定員：	45名
所在地(都道府県)：	長崎県
所在地(市町村以下)：	島原市船泊町丁3289番地1
T E L：	0957-62-2054
U R L：	0957-62-2148
【施設の概要】	
開設年月日	1948/1/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人みのり会
職員数 常勤職員：	23名
職員数 非常勤職員：	1名
専門職員の名称（ア）	認定心理士
上記専門職員の人数：	3名
専門職員の名称（イ）	保育士
上記専門職員の人数：	2名
専門職員の名称（ウ）	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（エ）	調理師
上記専門職員の人数：	2名
専門職員の名称（オ）	
上記専門職員の人数：	名
専門職員の名称（カ）	
上記専門職員の人数：	名
施設設備の概要（ア）居室数：	25室
施設設備の概要（イ）設備等：	医務室1室、遊戯室1室、静養室1室、図書室1室、浴室2室、食堂1室、
施設設備の概要（ウ）：	会議室1室、トイレ男6女3、宿直室3室、指導室2室、相談室1室、
施設設備の概要（エ）：	事務室1室、心理療法室1室、洗濯室1室、倉庫1、運動場1

④理念・基本方針

<p>理念</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 一人一人の生命と個人の尊厳を大切にします。 2) すべての利用者のために誠実に奉仕し何よりも安全安心を第一とした事業の運営に努めます。 3) 百有余年の歴史と伝統を活かし常に時代に適応した社会福祉の向上に邁進します。 4) 地域の人々との絆を育み社会貢献活動の推進に努めます。 5) 職員は、常に礼節を保ち自己研鑽に励むとともに協力して明るい職場づくりに努めます。 <p>基本方針</p> <p>児童福祉法の定める児童福祉のもと、児童養護施設「太陽寮」の円滑な運営を推進する為、長崎こども・女性・障害者支援センター、学校など関係機関ならびに保護者との連携を図るとともに地域との交流にも努め児童の権利擁護を最重点課題に職員一体となって明るく開かれた施設作りを目指す。</p> <p>一人一人を大切に明るく温かい家族的な環境の中で生活しながら、豊かな心を育て、自立に必要な知識、技能や態度を身に付け、未来をより良く生きようとする子どもを育てる。</p>

⑤施設の特徴的な取組

<p>こどもたち、職員が①安心して、安全に暮らすことができる生活の場であること②主体性を持ち仲良く温かな生活を心豊かに営む和があること</p> <p>地域の中にあることを強く自覚し、地域との良い関係を作り、肯定的に認められる施設から期待をされる施設を目指すこと</p> <p>「こどもの権利の最善の利益を守り、豊かな心を育む委員会（通称：ゆたここ）」の開催</p>
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2017/8/17
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2017/12/28
受審回数	2回

⑦総評

◇特に評価の高い点

- ・地域との交流

年度事業計画の中には地域交流事業として具体的事項を挙げ、自治会、子ども会に加入し、地域農家へ作業支援に向くなど地域社会の一員として積極的に関係づくりに取り組まれていることが窺え、また、運動会などの施設のイベントには地域の方を招いたり町内自治会の方や学校友人が気軽に訪問されていることが窺えるなど、高く評価できます。

- ・子どもへの適切な対応

職員は子どもが主体的に動けるよう見守りの姿勢で関わることを基本としていますが、自立に向けて必要な知識、技能や態度を身につける事ができるよう状況を見ながら助言し対応しています。経験の中で喜怒哀楽を分かち合い、失敗やつまずきを一緒に乗り越え、子どもと一緒に生活しながらこれからの目標づくりの声かけをし支援に努めています。年度ごとに配布される「職員ノート」には児童の権利擁護を最重点課題に示し、施設独自の「児童の権利と最善の利益を守り 豊かな心を育む委員会」を毎月開催することで職員の意識向上に努めています。児童虐待の定義や被措置児童虐待の種類等を明文化し、日常的な会議の中から児童への対応や職員のセルフコントロール、職員同士の連携など具体的な場面を取り上げ、虐待を起させない環境づくりに努められています。現在、不適切な対応の事案はありませんが、事案発生の際には事実確認をし、児童に対する心のケアや虐待に対する職員の共通理解や施設内体勢、今後の対応手順など理解を深める取り組みがなされています。

- ・子どもの自立性・主体性を支援

年齢ごとに基本的な日課を示されていますが、グループ担当職員が日々の関わりの中で子どもの生活に対する意向に耳を傾け、自分たちの生活について検討する意識を大事にしながら生活改善に向け支援されています。少人数の生活を営む中で子どもの主体性をあげ、ひとり一人の重要感をお互いに認識しながら自己肯定感を上げる取り組みがなされています。年齢に応じて余暇活動で使用する道具や設備を準備し、健やかに日々の生活を営む「我が家」としての環境づくりに職員も参加しながら、子どもが主体的に生活できるよう努められています。

◇改善を求められる点

- ・事業計画の周知

現状では子どもや保護者等へ事業計画を周知し理解を促す取り組みを行うまでには至っていません。子どもには年齢等を考慮しながら事業計画の簡略版やポイントを絞って必要に応じて掲示するなど周知し、また、保護者にも周知を図っていく取り組みが望まれます。

- ・働きやすい職場環境の整備

有給休暇の取得状況も特に問題はありませぬ。職員は定期的に健康診断も受診されています。また、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントの防止について職員へ周知がなされています。一方で施設長と職員との認識の差異があることも否めませぬ。例えば、職員に対して職場環境の問題点と対策についてアンケート等を実施して、課題を明確にして職場環境の改善につなげるなど、働きやすい職場環境づくりについてワーク・ライフ・バランスに配慮し取り組むことが望まれます。

- ・養育・支援の実施状況の定期的な検証・見直し

標準的な1日の日常日程を定め、職員の業務分担に応じた業務の実施や記録がなされ、現状の検証がなされています。一方、養育支援の実施状況の検証・見直しが定期的には実施されているとは言えず、また、必要に応じて自立支援計画へ適切に反映するまでには至っていません。今後、養育支援の実施状況の検証・見直しを定期的に行い、必要に応じて自立支援計画へ適切に反映することが望まれます。

- ・自立支援計画の評価・見直しの具体的な手順や仕組みの整備

現状では自立支援計画の評価・見直しについて具体的な手順や仕組みが整備されているとは言えませぬ。策定した自立支援計画についてPDCAサイクルを継続的に実施し、評価・見直しに関しての手順を定め、実施することが望まれます。また、定期的な見直し時には目標の妥当性や具体的支援の有効性を検証し、支援について変更する際の子どもの意向確認や同意を得ることも望まれます。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回で2回目の受審となりますが、その都度、現状を客観的に見ること、頭の整理ができ、取り組みの強化や見直しに意欲を持つことができている。評価時にいただいたご指導やご助言を活かし、こども達にとってより安全で、安心して暮らせる生活環境作りを行い、こども達が豊かな心を持って、胸を張って社会に貢献していくような子育てを実践できるよう取り組んでまいります。

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されるとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○

【コメント】

施設としての理念及び方針を明文化されており、職員の個人ノートにも綴じこみ周知するよう取り組まれています。方針からは養育・支援に対する基本的な考え方・姿勢が示され職員にも周知が図られています。また、リーフレットにも記載して見学者や来訪者に配布されています。養育・支援に対する安心感・信頼感を一層高めるためにも子どもや保護者等関係者へ理念や基本方針を周知していくよう今後の取り組みに期待します。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	

2

【コメント】

社会養護施設のあり方等について国や県の動向を踏まえ、新事業の展望や施設の設備、職員体制等の検討がなされています。今後、将来展望を図る上でも、引き続き地域における福祉の需要動向や養育・支援のニーズの把握に努め、把握した動向やデータ等について職員間で共有化を図りながら取り組むことに期待します。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	

3

【コメント】

経営課題や養育・支援内容等についての具体的な課題点や問題点は職員間で話し合いながら課題を明確にし、第三者評価基準についても参考にしながら改善に向け積極的に取り組まれていることが窺えます。施設長は法人理事を兼務されており、課題等についても組織的に取り組むよう努められています。運営状況や改善すべき課題についても職員と検討をする機会を設けるなど、新たに取り組みが始まっており、今後に期待が持てます。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

4

【コメント】

事業計画書に長期的な目標を明記し、策定されています。今後、地域のニーズに基づいた新たな福祉サービスの実施といったことを含めた目標（ビジョン）を明確にし実現する為の養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成等の現状を分析し、課題点や問題点を明らかにして目標（ビジョン）を実現できるよう具体的な中長期計画を策定することが望まれます。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	5
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。		
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		

【コメント】

前年度の実施状況を踏まえて事業計画が策定されています。今後、具体的に数値目標や成果等を設定し、実施状況を定量的に分析できるよう事業計画を策定することが望まれます。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	6
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。		
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○	

【コメント】

年度末に主幹会議や職員会議等で前年度の状況や職員の意見等を集約して事業計画へ反映するよう努められています。引き続き事業計画を職員へ周知し、より理解を促進できるよう多くの職員が事業計画の策定に参画し取り組むことが望まれます。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c	7
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。		

【コメント】

現状では子どもや保護者等へ事業計画を周知し理解を促す取り組みを行うまでには至っていません。子どもには年齢等を考慮しながら事業計画の簡略版やポイントを絞って必要に応じて掲示するなど周知し、また、保護者にも周知を図っていく取り組みが望まれます。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果	8
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○	

<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(G:Check)を行う体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

指導計画に基づき、小規模グループケアとしてグループ単位での養育、支援の実施、結果の分析、結果の見直しのPDCAサイクルの取り組みを始められたことが窺えます。支援サービス会議を設け、養育、支援についてのチェックする取り組みも窺えます。自己評価は毎年実施されており、第三者評価も3年の1度定期的に受審されています。改善への意欲が窺え、自己評価を実施した際の職員の気づきや評価を検討し、質の向上に向けた取り組みを始められています。

② 9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

養育、支援についての課題について検討した記録が残されており、課題等を改善するために職員間で共有し取り組まれていることが窺えます。職員からの改善策の提案等、職員が参画された取り組みが窺えますので、今後、計画的に改善を図っていくためにも改善計画書として文書化して改善課題を着実に実施し、また、中長期的な検討が必要な改善課題は中・長期計画や単年度の事業計画に反映し取り組むことに期待します。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

職務分担表等を作成して施設長の役割を明確にし、養育・支援の向上に努め、不在時には主任がバックアップし、対応することされています。尚、不在時の権限委任等については文書化して明確にしておくと共に、施設長の役割や責任について職員会議や広報誌等に掲載し周知を図っていくことが望まれます。

② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

施設長は、遵守すべき法令について各種研修に参加するなどして研鑽し、施設全体をリードしてコンプライアンスの取り組みに努められています。施設として遵守すべき基本的な関係法令について把握し、福祉分野以外の法令についても情報を収集し把握に努められており、高く評価できます。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

12

【コメント】

施設長は様々な研修に参加して自己研鑽し専門性の向上に努められています。施設長は養育、支援の向上について、一定の事項についてはグループリーダーに任せ、職員自ら考え、気づき、行動するよう見守りながら対応されていることが窺えます。引き続き職員と積極的にコミュニケーションをとり、職員意見を反映させながら養育、支援の向上に取り組むことに期待します。

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

13

【コメント】

施設内の各種制度導入の過渡期ではあるものの施設内の改善や業務の実効性を高めるよう会議等を通じ、職員との共通の意識形成が図れるよう取り組まれています。一方で人員不足傾向が続いていることの弊害も窺えます。キャリアパスにおける処遇改善加算に向けた取り組みも始められていますので、引き続き理念や基本方針の実現に向け、職場環境の整備に積極的に取り組むことを期待します。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	

14

【コメント】

資格取得や資質向上のための研修体制についてどのようにしていくか等、人事教育会議を開催し、現在検討がなされています。人材確保については、学校関係やハローワークを通じた募集や実習生へのアプローチ等の取り組みが窺えます。キャリアパスにおける処遇改善加算に向けた取り組みも始められています。基幹的職員や心理療法職員、家庭支援専門相談員の配置など、専門職の機能を活かした取り組みが窺えます。一方、必要な福祉人材や人員体制の考え方、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立しているとは言えません。これらについて明確にして具体的に計画に反映し、取り組むことが望まれます。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b	15
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。		
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。		
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができて	○	

【コメント】

事業計画の中の職員の養育態度としても「愛情いっぱい 元気よし 笑顔よし」・「愛すること」・「責任」・「人の役に立つ喜び」を伝える(教える)として具体的に示されています。就業規則に定められた人事基準や給与基準に基づいた人事管理が行われています。今後、キャリアパスのしくみを反映した就業規則等の改定も予定されていることが窺えます。職員相互の評価の仕組みを活かしながら適切にリーダー等の管理者も評価に加わり、職員等が自ら将来像を描けるような仕組みを構築していくことを期待します。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	c	16
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。		
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。		
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。		
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。		

【コメント】

有給休暇の取得状況も特に問題はありません。職員は定期的に健康診断も受診されています。また、セクシャルハラスメントやパワーハラスメントの防止について職員へ周知がなされています。一方で施設長と職員との認識の差異があることも否めません。例えば、職員に対して職場環境の問題点と対策についてアンケート等を実施して、課題を明確にして職場環境の改善につなげるなど、働きやすい職場環境づくりについてワーク・ライフ・バランスに配慮しながら取り組むことが望まれます。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	17
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。		

【コメント】

職員の自己評価及び相互の評価「ワンオンワン」を実施し、本人の評価や見直しに向けた取り組みが窺えます。職員の目標設定をより実効性のあるものにするよう目標管理シートに「目標項目」、「目標水準」、「目標期限」を明確にし、到達可能な水準を設定して取り組むことが望まれます。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

18

【コメント】

研修計画が策定され、施設内外における研修へ参加されています。一方、研修計画についての評価・見直しを行うまでには至っていません。教育・研修成果の評価分析を行い、その結果を踏まえて次年度の研修計画に反映させることが望まれます。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	

19

【コメント】

スポット的な外部研修の案内も必要に応じて職員に情報提供がなされています。養育・支援に関わるニーズは複雑化しており、専門性が一層求められています。職員の経験や習熟度に応じた研修に参加したりOJTを行なうなど、職員一人ひとりが研修の場に参加できるよう配慮していくことが望まれます。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

20

【コメント】

実習生等の受入れマニュアルを整備し、手順に沿った対応がなされ、指導担当教員も選任されています。大学校や専門学校と連携し効果的な実習となるよう取り組まれています。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○

21

<input type="checkbox"/>	施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○
<input type="checkbox"/>	第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	○
<input type="checkbox"/>	法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	
<input type="checkbox"/>	地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

法人本部のホームページにより理念や運営方針、財務等に関する情報が開示されています。関係機関等には、個人情報に配慮しながら印刷物や広報誌等を配布し、周知が図られています。引き続き社会・地域に対して施設の役割を明確にしながらい理念や基本方針等について周知していく取り組みに期待します。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
<input type="checkbox"/>	施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	○
<input type="checkbox"/>	施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
<input type="checkbox"/>	施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	○
<input type="checkbox"/>	施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	
<input type="checkbox"/>	外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	○
<input type="checkbox"/>	外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

経理規定を文書化して経営や財務管理の透明性を高めるためのルールを明確にしています。外部監査は顧問税理士による専門的な会計に関するチェックがなされています。

22

4 地域との交流、地域貢献

(1)	地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
<input type="checkbox"/>	子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
<input type="checkbox"/>	施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
<input type="checkbox"/>	学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

年度事業計画の中には地域交流事業として具体的事項を挙げ、自治会、子ども会に加入し、地域農家へ作業支援に出向くなど地域社会の一員として積極的に関係づくりに取り組まれていることが窺え、また、運動会などの施設のイベントには地域の方を招いたり町内自治会の方や学校友人が気軽に訪問されていることが窺えるなど、高く評価できます。

23

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	c
<input type="checkbox"/>	ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	
<input type="checkbox"/>	地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	
<input type="checkbox"/>	ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	

24

- ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。
- 学校教育への協力を行っている。

○

【コメント】

ボランティアの受け入れがなされています。一方、ボランティア等の受入れに関する方針及びマニュアルについて文書化するまでには至っていません。ボランティア等の受入れに関する方針を明文化することが望まれます。また、ボランティア受入れにあたっての手順や流れについて、ボランティア活動の申込手続、配置、子どもや保護者等への事前説明、ボランティアや学習への協力に係る事前説明、実施状況の記録等の項目を文書化したマニュアルを作成し、取り組むことが望まれます。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

- ① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。
- 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。
 - 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。
 - 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。
 - 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。
 - 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。

b

25

【コメント】

施設を取り巻く地域の社会資源との交流ネットワークが分かりやすいよう関係図にして明示し、職員とも共有化が図られています。児童相談所、市町村福祉事務所、公共職業安定所のほか学校関係とも連携し、定期的に情報交換を行うよう努められています。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

- ① 26 施設が有する機能を地域に還元している。
- 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。
 - 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。
 - 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。
 - 災害時の地域における役割等について確認がなされている。
 - 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。

b

26

【コメント】

施設のスペースを自治会の総会時に提供したり、災害時の一時退避場所としても協力していることが窺えます。地域祭りにも積極的に参加し地域の方々とコミュニケーションが図られています。地域の人々からより信頼を得ていくためにも、施設の専門性や特性を活かした講習会を開催するなどの今後の取り組みに期待します。

- ② 27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。
- 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。
 - 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。
 - 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。
 - 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。
 - 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。

c

27

	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。
--	--

【コメント】
 地域との交流が積極的に行われ、また、関係機関との情報交換も定期的に行われており、一定の福祉ニーズの把握はなされているものと思われます。しかし、施設として地域の具体的な福祉ニーズを把握するために積極的、主体的に取り組むまでには至っていません。地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取り組みを積極的に行い、把握したニーズを活用して公益的な活動を積極的に行うことが求められます。施設の持つ専門性や特性を地域に還元していくよう今後の取り組みに期待します。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果
① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

28

【コメント】
 理念をはじめ基本方針には「児童の権利擁護を最重点課題に・・・」と謳い、児童憲章、オレンジリボン憲章等に基づいた処遇方針を明確にされており、子どもを尊重した養育・支援を実施する基本姿勢が窺えます。定期的に「子どもの権利の最善の利益を守り、豊かな心を育む委員会（通称：ゆたここ）」が開催されています。職員が共通の理解をもって養育・支援を実施できているかをチェックするリストを作成し振り返る機会を設け、また、ガイドラインに基づいた職員研修へ取り組んでいることは評価できます。

② 29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b
<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	
<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	
<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	
<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	

29

【コメント】
 児童虐待対応マニュアルを整備し、虐待等についての対応の手順を明確化し職員へ適宜研修等を行い、周知が図られています。また、被措置児童虐待防止委員会を設置し、積極的な取り組みが窺えます。子どものプライバシー保護に関して、性差等を配慮するなどの取り組みが窺えますが、規程類の整備については十分とは言えません。子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル類を整備し、職員に周知し取り組むことが望まれます。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	
① 30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b

30

<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性を紹介した資料を準備している。	○
<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	
<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

施設の情報リーフレットやホームページ等にわかりやすいよう掲載し、希望に応じて見学の受け入れもなされています。保護者等については、支援内容等について年1回の定期情報提供がなされ、必要に応じて対応を変更するなどの見直しもなされています。児童相談所からの措置前提となっていること踏まえ、個別に丁寧な説明となっているか、引き続き振り返りながら取り組むことに期待します。

② 31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b	31
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。		
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいよう工夫した資料を用いて説明している。	○	
<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。		
<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。		

【コメント】

養育・支援の開始にあたっては、子どもにもわかりやすいように文字にはふりがなを振った文書「みんなのやくそく」を整備し、日常生活や留意事項等が記載され、必要に応じて職員と一緒に読みながら説明がなされています。また、「権利ノート」を子ども及び保護者に説明し周知するよう取り組まれています。今後の更なる取り組みとして写真や図・絵などを使用し工夫することが望まれます。

③ 32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b	32
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○	
<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。		
<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。		

【コメント】

子どもの家庭への移行について、適宜家庭へ訪問したり、退所後も相談に応じるなどの取り組みは評価できます。退所後の記録について整備されていますが、対応の手順や留意点、退所後の相談に関することについても整備することが望まれます。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。	第三者 評価結果	33
① 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b	
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。		
<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。		
<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。		

- 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。
- 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。

○
○

【コメント】

グループ単位での養育、支援が実施され、子ども自身が生活の向上に主体的に係わりを持つよう取り組まれており、子どもから意見や提案を挙げてもらうなどの取り組みが窺えます。また、職員は日々の子どもの会話の中から汲み取るよう配慮されています。一方、現状では子どもの満足度調査を把握するための仕組みが構築されているとは言えません。満足度調査やその分析及び改善の仕組みを構築し、定期的の実施していくことが望まれます。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

34

【コメント】

苦情については平成27年度4件、平成28年度3件が受け付けられています。苦情解決に関し、苦情受付担当者及び責任者、第三者委員が選任されており、苦情解決の仕組みを構築されています。「子どもの権利擁護ノート」を子どもへ配布し、苦情等の申し出や複数の窓口についても明記し、また、苦情受付書の記録も整備されています。手順に則り子どもへのフィードバックがなされています。子どもや保護者が苦情を申し出やすい工夫ができているかを検証し、また、子どもや保護者に配慮したうえで苦情内容や解決結果等を公表することが求められます。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

35

【コメント】

個別処遇室を設け、子どもが個別に相談や意見を述べやすいよう配慮し、同室には苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物を掲示されています。子どもからの相談や意見はグループ単位で定期的に茶話会などを開催して収集し、その結果については適宜職員会議に諮り改善に向けて検討がなされています。子どもや保護者に対して相談方法等に関する文書を配布して相談方法について更に周知する取り組みが望まれます。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

36

【コメント】

職員は子どもとの日々の養育・支援の実施の中で相談を受けたり傾聴するよう努められています。意見箱を設置して相談や意見を受け付ける仕組みはありますが、相談や意見、要望等を受けた際の手順、対応方法、記録方法、経過と結果の説明、公表の方法といった具体的事項についてマニュアル化し整備することが望まれます。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。 第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

37

【コメント】
ヒヤリ・ハット等の事例の収集が行われています。施設内にある危険物の管理や遊具等についても適宜点検が行われています。防災・防犯マニュアルを整備して、職員間で安全管理の為に共通認識を持つよう努められています。今後、収集したヒヤリ・ハットについて要因分析と改善策・再発防止の検討・実施に繋げていくことが望まれます。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	○

38

【コメント】
衛生管理マニュアル、ノロウイルスマニュアルを整備し、施設内に医療委員会を立ち上げ、職員の役割を健康管理、通院管理、発育管理、薬品管理、衛生管理と役割を細分化して感染症への対応に努められています。引き続き、感染症対策についてのマニュアルを全職員に周知し、時季等を考慮し定期的に感染症予防や安全確保に関する勉強会を開催することが望まれます。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

39

防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。

【コメント】

防災・防犯マニュアルを整備し、毎月1回避難訓練を実施し、年に2回消防署立会いの下で総合訓練が実施されています。また、自然災害に関するマニュアルを整備し、災害時の避難場所の明確化及び避難場所への経路の確認がなされており、備蓄リストを作成し非常時における一定の備蓄の確保がなされています。一方、立地条件から、海岸に近いことを考慮し、消防署のほか警察署、自治会、福祉関係団体等と連携して訓練を実施していくことが望まれます。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。 第三者
評価結果

①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b	40
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。		
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。		

【コメント】

施設内に業務マニュアル委員会を立ち上げ、業務等についてマニュアル化や手順を明確にして、職員に周知が図られています。マニュアルに添って実施されているかどうかについて確認する仕組みを構築するまでには至っていません。業務マニュアル委員会を活用するなどして、標準的な実施方法に基づいて実施されているかどうかについて確認する仕組みを構築することが望まれます。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	c	41
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。		
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。		

【コメント】

標準的な1日の日常日程を定め、職員の業務分担に応じた業務の実施や記録がなされ、現状の検証がなされています。一方、養育支援の実施状況の検証・見直しが定期的に行われているとは言えず、また、必要に応じて自立支援計画へ適切に反映するまでには至っていません。今後、養育支援の実施状況の検証・見直しを定期的に行い、必要に応じて自立支援計画へ適切に反映することが望まれます。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b	42
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○	
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	○	

<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	
<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	
<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

自立支援計画の立案、実施、記録についてそれぞれのグループで担当職員が選任され、各グループ会議やケース会議を開催し、具体的な支援に繋がっています。個別記録や日誌に支援内容等の記録が残されています。現状では確立したアセスメント手法が確立していませんが、試行的に取り組みされており、今後への取り組みに期待します。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	c	43
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容（ニーズ）等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。		

【コメント】

現状では自立支援計画の評価、見直しについて具体的な手順や仕組みが整備されているとは言えません。策定した自立支援計画についてPDCAサイクルを継続的に実施し、評価・見直しに関しての手順を定め、実施することが望まれます。また、定期的な見直し時には目標の妥当性や具体的支援の有効性を検証し、支援について変更する際の子どもの意向確認や同意を得ることも望まれます。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	b	44
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。		
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○	

【コメント】

施設で定めた様式による支援経過記録の作成がなされ、パソコンのネットワークシステムを構築して職員間で共有が図られています。必要な情報は日誌に記入し、申し送り時に関係する職員に伝えています。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b	45
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○	

<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	

【コメント】
個人情報保護に関する規定を整備し、会議などを通じて職員に周知しています。今後、子どもや保護者に対しても個人情報の取り扱いについてルールを明確にし、説明することが望まれます。

□
内容評価基準（41項目） A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
① A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。	○
<input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。	
<input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。	

A1

【コメント】
法人の運営、行動指針と児童福祉法などの法令をまとめた「職員ノート」を各自が所持し、職員としての姿勢や振る舞いについて、指標をもとに職務の質と行動の成長に繋がるよう取り組まれています。毎月実施される職員会議では、子どもの日々の状況を話し合い、関係機関との連携を図りながら、豊かな心でよりよく生きようとする子どもの暮らしを支援するよう努められています。職員の専門性を高めるために職務に応じて外部研修に参加し、職員会議で共通認識を持ちながら行動課題の把握や実践力を高めるよう努められています。

② A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	b
<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	
<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	

A2

【コメント】
個別の事情に配慮し、話す時期や伝える内容や方法などグループ担当職員で話し合いで確認し、担当職員が慎重に事実を伝えるようにしています。施設は事実を伝えることを必要と考えていますが、子どもの個性によって受け止め方の違いを考慮し、家庭支援相談員や児童相談所と連携しながら子どもの言動の変化に注意を払い対応されています。子どもたちへの対応に柔軟性を持った対応について職員の差異が生じている事を課題と捉えており、今後は生い立ちの整理や育ちなど、個々に応じて子どもがどのような人生を歩んできたか分かりやすく伝える取り組みが望まれます。

(2) 権利についての説明	
① A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
<input type="checkbox"/> 定期的に全体の場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	

A3

<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	
<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○

【コメント】

子どもたちに対しては、自らの権利が認識できるように「権利ノート」を使用し、子どもひとり一人が大切な存在である事と人間の尊厳について理解を促す取り組みが窺えます。職員はオレンジリボン憲章を理解し、「子どもの権利の最善の利益を守り、豊かな心を育む委員会」では事例を通して権利について話し合いがなされています。日常生活の関わりの中で職員が言葉や行動で示し、ひとり一人が安心して自由を守られる事を生活の中で実感できるよう努めています。入所している子どもの年齢に幅があることから、年齢に応じて図やイラストなど分かりやすい資料の準備があると、なお理解が深まるのではないかと思います。

(3) 他者の尊重

① A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	b	A4
<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別的にふれあう時間を確保している。	○	
<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。		
<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	○	
<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。	○	

【コメント】

施設周辺の清掃活動や、高齢者世帯の訪問を通して地域の方との交流の機会を持ち、子どもたち自身が人の役に立つ喜びを感じるといった心の育ちを支援する取り組みがなされています。特別支援学級の子どもの在籍があり、子どもたちは思いやりの心を持って隔たりなく関わり合う事ができています。居室の組み合わせやグループ活動において異年齢との関わりを持ち、ふれあいや対人関係を日常的に経験できる生活環境が準備されています。喧嘩やトラブルが発生した際は職員が子どもたちの仲介役になり、その子の言動の意図や解決方法を話し合う時間を設け、互いの気持ちを認め合い関係が修復できるよう関わっています。

(4) 被措置児童等虐待対応

① A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a	A5
<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	○	

【コメント】

年度ごとに配布される「職員ノート」には児童の権利擁護を最重点課題に示し、施設独自の「児童の権利と最善の利益を守り 豊かな心を育む委員会」を毎月開催することで職員の意識向上に努めています。児童虐待の定義や被措置児童虐待の種類等を明文化し、日常的な会議の中から児童への対応や職員のセルフコントロール、職員同士の連携など具体的な場面を取り上げ、虐待を起こさせない環境づくりに努められています。現在、不適切な対応の事案はありませんが、事案発生の際には事実確認をし、児童に対する心のケアや虐待に対する職員の共通理解や施設内体勢、今後の対応手順など理解を深める取り組みがなされています。

② A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b	A6
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。	○	
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	○	
<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。		

<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	
<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	

【コメント】

子どもの権利を守るチェックリストやガイドラインの職員研修の機会を持ち、職員会議で具体的な事例を話し合いながら不適切な関わり方の防止と早期発見に努める体制が整えられています。権利擁護委員会を中心に子どもの権利がしっかりと守られている事を監査し、就業規則にも懲戒規定を示し不適切な関わり方の防止の徹底に努められています。子どもたちには日常の中で不適切な関わりについて伝えるようにしていますが、具体的な学習の機会を設けるなどの取り組みが不足している状況にあり、今後更に周知方法について検討していくことが望まれます。

③ A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b	A7
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。		

【コメント】

権利擁護委員を中心に児童の権利が守られていることを観察し、権利侵害に対しては直ちに解決に向けた取り組みがなされる体制が整備されています。被措置児童虐待マニュアルの整備や被措置児童虐待事案発生時の対応手順を示し、通告者や入所児童への対応や適切な対応がとれる体制となっています。現在、子どもたちには権利ノートや児童虐待防止ポスターでの周知に留まっている現状にあるため、今後より一層、子どもたち自身が自分を守る方法や手段を示す取り組みが望まれます。

(5) 思想や信教の自由の保障

① A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	a	A8
<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。	○	
<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	○	

【コメント】

子どもの思想や信仰についての制限はなく、心の自由について尊重する姿勢を持って関わっています。子どもの保護者の思想や宗教によって、日本の年中行事への参加を控える事例がありましたが、子ども自身や保護者の意向に添って対応されています。

(6) こどもの意向や主体性への配慮

① A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b	A9
<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	○	
<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。		

【コメント】

入所の際には、施設での過ごし方や生活の様子を分かりやすく伝える資料を用い、入所時の不安を解消する働きかけがなされています。必要に応じて施設見学や体験入所に応じ、一時入所時には入所中の子どもとの交流を図ることで入所に納得できる一助になるよう支援されています。入所後は関係機関からの資料をもとに居室を検討し、家庭的な養護体制（グループケア）の中から家庭的な生活の営みにおける子どもの心身の育ちを支援されています。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	b	A10
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。		

【コメント】

グループケアや茶話会等で子どもの意向を汲み取る機会を大事にしており、子どもが主体的に生活できるよう職員が関わりを持ちながら支援されています。共同生活の中で生じる問題や課題について、子どもがそれぞれに持つ思いを大事にし、お互いが本当の気持ちを口にする事で相手の気持ちを知るきっかけとなり、より子どもが生活しやすいよう改善に向け支援されています。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	b	A11
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	○	
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。		
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	○	

【コメント】

年齢ごとに基本的な日課を示されていますが、グループ担当職員が日々の関わりの中で子どもの生活に対する意向に耳を傾け、自分たちの生活について検討する意識を大事にしながら生活改善に向け支援されています。少人数の生活を営む中で子どもの主体性をあげ、ひとり一人の重要感をお互いに認識し合いながら自己肯定感をあげる取り組みがなされています。年齢に応じて余暇活動で使用する道具や設備を準備し、健やかに日々の生活を営む「我が家」としての環境づくりに職員も参加しながら、子どもが主体的に生活できるよう努められています。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b	A12
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。		
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	○	

【コメント】

年齢に応じて小遣いの準備があり、将来自分で生活のやりくりができる習慣を身につけるための支援に努めています。高校生以上は小遣いにおやつ代を含み、年齢によって金銭の使い方や貯金の仕方などを職員と一緒に検討し、買い物やを通して物の値段や相場を知るきっかけとなっています。お小遣い帳の管理を自分で行う事で自分の手元にくらあるのか、どのくらい使ったのかが把握でき金銭管理や感覚の大切さが分かるように支援されています。グループによっては1週間の献立を生活費の予算内で賄う取り組みもみられましたが、今後も生活の中に実践を取り入れながら経済観念を培う支援の工夫が望まれます。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b	A13
---	---	---	-----

<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	○
<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	
<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	
<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。	○

【コメント】
 子どもの家庭復帰については本人や家族の意向を踏まえ、家庭支援相談員を中心に児童相談所や居住する地域の関係機関との連携や支援体制を検討し、家族関係の調整や家族支援のあり方について計画を立て支援されています。一定期間において、家庭復帰後の足跡を電話等で確認しながら退所後も関わりが途切れないよう継続的に支援されています。退所後に子どもとのやり取りをした内容を記録にとどめ経過を把握するよう努められています。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b	A14
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。		

【コメント】
 日頃の関わりの中から退所後の子どもたちの意向を把握し、自立支援計画書に具体的な支援内容を示しながら自立支援コーディネーターと一緒にそれぞれによりよい就職先や進学先等を決定できるよう支援されています。それぞれの事情に応じて措置継続や延長を積極的に利用し、奨学金や貸付制度などの情報を集めながら、進学後の経済的な基盤づくりを支えるよう支援されています。一旦退所した子どもも経過によっては再入所し措置延長で対応した事例があり、今後も同様の対応を行っていく体制にあります。

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b	A15
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。		
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。		

【コメント】
 退所するにあたっては、退所後は一定期間の足跡を追いながら、退所後すぐの担当職員と家庭支援相談員を中心にアフターケアに努められています。日頃の関わりの中で将来の進路ややりたい職業を聞き、ちょっとしたやり取りや退所後の不安に関わる内容を記録に残し現状把握に努め、子どもの身近な相談相手として職員間で共通の認識を持っています。退所後他県に移住した子どもの足取りを確認し、ニーズに応じて相談先の助言や関係機関への働きかけを行っています。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果	
①	A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b	A16
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。		

<input type="checkbox"/>	子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起きているのかを理解しようとしている。	○
<input type="checkbox"/>	子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	
<input type="checkbox"/>	子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	

【コメント】

職員は入所する子どものこれまでの過程や家庭状況を把握することを心がけ、日常の中で職員は子どもにとって身近な存在として、日々積極的に子どもたちと関わるよう努めています。グループ担当職員は言葉がけによる仕草や言動に注意を払い、信頼関係を築くよう支援に努めています。子ども自身が担当職員に話にくい相談があった際には他のグループ担当職員が話を聞き、子どもが心を開きやすい態度で接するようにしています。自己評価では現状に留まらず、更に高い意識を持って取り組んでいく認識を持っており、今後も個々の心理的特性に留意した支援をしていくことが望まれます。

②	A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b	A17
<input type="checkbox"/>	子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。		
<input type="checkbox"/>	基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○	
<input type="checkbox"/>	高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○	
<input type="checkbox"/>	子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○	
<input type="checkbox"/>	基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	○	
<input type="checkbox"/>	夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○	

【コメント】

子どもたちはグループケアで生活をしており、子どもと職員と一緒に生活することによって信頼感が増し基本的欲求を表出しやすい環境や関係を築けるよう取り組んでいます。子どもたちが「我が家」のような温かい家族的な環境の中で、温かさと親密さを持った生活ができるよう支援に努めています。幼児については肌の温かさを感じながら眠りにつくまで職員が添い寝し、夜間に目覚めたときには一緒に過ごすなど安心感と愛情を持って生活できるよう支援に努めています。職員は職務の質をあげ、欲求の把握に努めていきたいとの認識を持って取り組んでおり、今後ますます信頼関係を深める取り組みに期待します。

③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b	A18
<input type="checkbox"/>	子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○	
<input type="checkbox"/>	職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○	
<input type="checkbox"/>	子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○	
<input type="checkbox"/>	つまづきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。		
<input type="checkbox"/>	朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。		

【コメント】

職員は子どもが主体的に動けるよう見守りの姿勢で関わることを基本としていますが、自立に向けて必要な知識、技能や態度を身につける事ができるような状況を見ながら助言し対応しています。経験の中で喜怒哀楽を分かち合い、失敗やつまづきを一緒に乗り越え、子どもと一緒に生活しながらこれからの目標づくりの声かけをし支援に努めています。職員は更に、対応に苦慮している際にフォローの仕方や適切に対応できるよう職務の質をあげたいとの考えを持っており、今後チームワークを高め、ファミリーケースワーク技法を発揮できる人材の育成に期待します。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b	A19
<input type="checkbox"/>	施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。	○	
<input type="checkbox"/>	日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	○	

<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。	

【コメント】

職員は子どもたちの年齢や発達に応じて、幼稚園や小学校、高校（特別支援学級を含む）など適切な就学先を検討し支援しています。職員は日常的に子どもたちの遊びに加わり、運動や文化など好きなものや打ちこめるものを一緒に探し経験を促しています。子どもたちの要求をなるべく叶えるよう積極的な取り組みがある一方で人的・物的な課題も多く、話しを聞くことで要求を満たす様努めています。施設内にはピアノやサッカー、虫取りの道具の準備があり、ピアノ講師や抱っこボランティアは子どもたちの要求を受け入れてくれる存在として愛情を持ち、関わりを持って支援されていますが、更なる充実を課題として認識しています。

⑤ A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b	A20
<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気です。	○	
<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。		
<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○	
<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○	
<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	○	

【コメント】

職員は身辺自立を促すよう年齢に応じて洗濯や部屋の片づけを促し、生活の中で必要なルールを子どもたちと話し合い支援に努めています。子どもたちには、みんなが仲良く楽しく生活するための「みんなのやくそく」を示し日常生活の関わりの中で具体的に習得できるよう支援しています。職員の振る舞いや態度については、年齢や経験から生じる差異は否めませんが、職員としての姿勢や振る舞いについてどうあるべきかを考えながら、行動を選択実践していきたいと意識改革を目標とし取り組んでいます。

(2) 食生活

① A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b	A21
<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。		
<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○	
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。		
<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。		
<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○	
<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	○	

【コメント】

子どもたちの部活動の都合で食事時間にはばつきが生じることもありますが、グループ毎に食卓を囲み温かく、家庭的な雰囲気の中で楽しく食事時間を過ごせるよう努めています。各グループごとで子どもたちが盛り付けし、量の調整やおかわりができるように支援しています。しかし、アンケート集計結果から子どもと職員の感覚の差異があることが窺え、具体的な要望や課題については再度子どもの意向を把握し、柔軟な対応ができるよう、今後更に職員間で確認し合う取り組みをしていくことが望まれます。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	b	A22
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもの対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。		

【コメント】

献立の作成にあたっては、調理師が子どもたちの希望を取り入れ、栄養素等に配慮しながらできる範囲で嗜好に合わせた食事が準備されています。入所時にアレルギーについての確認が行われ、代替食の準備や体調が悪い時には口に入れやすい献立に変更し健康状態に配慮した食事が提供されています。月1回、グループでの調理の機会があり、その際の献立で栄養素をグラフ化して示し、子どもたちに考える機会を設けてみることを今後の課題として認識しています。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b	A23
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。		
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつの摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。		
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	○	
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	○	
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。		

【コメント】

主に調理師が調理に携わるため、日常的な食材の買い物は担当職員が行う事が多くなっていますが、月1回のグループ調理の際には自分たちで献立を作成し、メニューに添った食材選びを支援されています。子どもたちは調理技術や知識を得ながら調理体験をし、時には自分たちで釣った魚を調理しグループの子どもたちに食べてもらうなど、料理をする楽しみを経験しています。食事摂取に関するマナーや後片付けなど、今後も職員が関わりを持ちながら食への意識や自信を持たせていきたいと考えており、今後の取り組みに期待します。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b	A24
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○	
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあつたものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。		
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。		

<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

年に2回衣替えと寝具の入れ替え時期を設定し、職員と一緒に衣類の購入に出かけ、年齢に応じて職員が衣類の確認や補充をしながらそれぞれが好みに応じた洋服を選べるように配慮されています。年齢に応じて衣類の洗濯を自分で行い、それぞれの部屋で管理していますが、子どもの個性として季節に応じた洋服の選択や靴の手入れなど衣習慣には個人差が窺えるため、身だしなみや衣類の管理など、職員が更に意識して支援していくことが望まれます。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b	A25
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。		
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。		

【コメント】

職員は子どもたちに「我が家」として住環境の点検を行うように声かけし、浴室や玄関など自分たちで手入れし環境を整えていくよう支援されています。食堂やリビングなどは子どもたちが馴染みのある道具を準備し、その場所が家庭的で居心地の良い空間になるよう工夫されています。一方で老朽化に伴い修繕箇所も多く、年齢に応じて自分たちで部屋の管理を行うよう助言されていますが、採光や設備面で生活の潤いが不足している部分が窺えました。清潔で温かみのある空間づくりを目指し整理整頓や掃除などの習慣が身につくよう、今後住環境の整備の充実に向け取り組むことが望まれます。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b	A26
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。		
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

入所時に年齢や子どもに合わせた部屋を準備し、その場所が子どもにとって落ち着ける場所になるよう部屋割りに配慮されています。年少児の居室は職員のすぐ目が届くところに配置し、夜中にすぐ対応できるよう配慮しています。個室は年齢によって個室を準備しているが相部屋となっている部屋も多く、部屋干しで空間が圧迫され、物理的に個人の領域が確保されているのかが分かりにくい様子が窺えました。家庭的で帰るとほっとできるような、健やかに日々の生活が営める空間づくりへ取り組むことが期待されます。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b	A27
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。		
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身につくよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自力行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	<input type="checkbox"/>	

<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	○
<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	
<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	
<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	○

【コメント】

職員は年齢に応じて子どもが自分で健康状態や清潔が維持できるよう、手洗いやうがいなど日常的に声かけ支援しています。入浴時間の設定はありますが、最後に入浴した子どもが浴室の手入れをする約束事を設け臨機応変に対応されています。天候がいい日は寝具や衣類を屋上に干し、清潔で衛生管理ができるように支援しています。園外に出た際の交通安全指導やマナーの声かけをしていますが、危険個所の認識や行為など子どもたちの認識を更に深めるような工夫を検討し、今後も課題として取り組んでいきたいとしています。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b	A28
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。		
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。		

【コメント】

職員は日常から子どもの健康状態を把握し、特に体調の変動がある子どもについては職員間で状態を共有し、健康管理表に記録しながら変化を見落とさないよう努めています。情緒や発達に関しても、日頃から関わりを持ちながら注意深く観察し、必要に応じてカウンセリングを受けながら専門医と協力しながら適切に対応できるように支援しています。関係医療機関との体制を整備し、社会資源表に示すことで職員が迅速に対応できるようにしていますが、今後より一層医療や健康について理解を深める取り組みが望まれます。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b	A29
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。		

【コメント】

職員は性をタブー視せず、個々の成長段階に応じて子どもの疑問や不安に答えるよう努めています。性に関しては「命のはなし」として大事に考えており、子どものつきあいについては気になる際に自分を守るよう伝え、異性への関わり方について見守り対応しています。現在、職員や子どもに定期的な学習の機会やカリキュラムの用意がないため、性教育について正しい知識や関心が持てるよう研修の機会を用意し、個々に応じた性教育の実施について検討することが望まれます。

(7) 自己領域の確保

①	A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	b	A30
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	○	

<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	
<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	○
<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	○

【コメント】

子どもの所有物は小さい頃からできるだけ購入し、個人所有とするようにしています。年齢や発達に応じて大きい文字や写真を使用しながら、自他の境界線が分かるよう工夫し、整理整頓や自分で道具の準備ができるよう工夫しています。自分の部屋にはタンスやクローゼットを準備し、所有物を大切にしよう声かけし管理を自分で行うようにしていますが、幾分子どもたちに整理整頓のスキルが不足している様子が窺えました。今後継続的に片づけを保てるような取り組みが期待されます。

② A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b	A31
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。		
<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録（アルバム等）を整理している。		
<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。		
<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録（アルバム等）が手渡されている。	○	

【コメント】

子どもひとり一人にアルバムを準備し、行事ごとに撮影した写真はグループごとに印刷し、グループ内の子どもたちや職員と一緒に見ることで生活を振り返るものとして大事にしています。アルバムは退所の際に手渡され、自らの成長過程に向き合う大事な機会としていますが、子どもの心情や事情から、現在はアルバム作成の過程において子どもが携わる機会を控えている状況にありました。子どもの思いの丈を語る機会を徐々に設けていくような取り組みが期待されます。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

① A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b	A32
<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもたちの安全を図る配慮がなされている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。		
<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。		
<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○	

【コメント】

子どもの行動上の問題については子どもの安全確保を第一に考え、必要に応じて静養室を利用しながら起こった経緯や話しに耳を傾け、相手の子どもの心情を代弁し言葉の意図を伝えるようにしていることが窺えます。互いに気持ち良く過ごせるよう、現在も職員が仲介役を担い支援に努めていますが、状況に応じて児童相談所へ報告し対応を検討しています。今後更に職員の資質をあげ、職員が行動上の問題解決に向けて適切な対応ができるよう知識を深め、更なる対応の充実に努めていく事が求められます。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b	A33
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。		

【コメント】

生活グループの構成や部屋割りについては子どもの特性に配慮して配置し、日頃から職員が子どもたちに対して気持ちや接し方の手本となるよう関わり方を言葉や態度で伝えるようにしています。問題の発生を予防するために入所後しばらくは注意しながら様子見し、個別に話を聞きながらその子が過ごしやすいう個別支援に努めていますが、職員の勤務形態によって職員配置が少ない時間帯があり、子どものSOSや変化を見落とさないよう今後も適切な対応ができる体制づくりに努めていくことが望まれます。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	b	A34
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	○	
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。		
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。		

【コメント】

面会は保護者より事前に連絡を受けた上で行うようにしており、保護者による強引な引き取り等の事案はありません。子どもを強引に引き取る可能性がある家庭は子どもの安全性に配慮し、施設は不審者侵入マニュアルと同等の対応をとるよう防止策や対応方法の確認がなされています。入所以前の家庭での関わりや、入所時における職員の共通認識に留まらず、学校や地域の交番と連携し対応するように努めています。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b	A35
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。		
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	○	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。		

【コメント】

職員は子どもたちの日々の生活を見守りながら心理的なケアが必要な子どもについては、グループ担当職員と心理療法担当職員共に支援を行っています。職員は心理的ストレスやトラウマを含む特性や傾向を話し合い、研修に参加することで対応方法を学びながら心理的ケアに関する理解を深めています。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

A36

【コメント】

自室が二人部屋となっているため、必要に応じて個別処遇室や食堂などを利用し、落ち着いて学習できるよう支援しています。子どもの学力に応じて職員が勉強に付き添い学習課題に努めたり、受験生には学習塾の活用もしながら学習力をあげる取り組みがあり、個別的な学習支援を行っています。忘れ物や宿題の未提出の状況把握や、個々の学力把握については不十分な点があり、職員は今後も課題であると捉えています。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	

A37

【コメント】

職員は日常の中で進路の意向について話を聞きながら進路決定に必要な資料や情報を準備し、なるべく早い段階から将来の方向性について一緒に考える機会を持つようにしています。進路決定後や、失敗した場合にも目標の実現に向けた取り組みができるよう選択肢を示し、子どもが自分で自己決定できるよう支援しています。現在通信制高校に通っている子どもも在籍しており、柔軟な対応がなされています。退所後の生活に関わる問題や金銭面の心配も、職員と一緒に考え、社会的自立ができるよう必要な支援を行っています。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

A38

【コメント】

アルバイトに関しては学校の許可を得た上で行うようにしており、働くことの大切さや、その仕事に必要な技能やマナーを身につける機会として役立てています。アルバイトを通して社会経験を積んでいけるよう、仕事に躓く心配がある子どもには事前に仕事先へ足を運び、子どもが社会の仕組みや働く上でのルールを経験し、できるだけ仕事が継続できるよう支援しています。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b	A39
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できよう図っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○	
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。		

【コメント】

家族関係の再構築にあたっては家庭児童相談員が行政や家族との窓口を担い、一時帰省や外泊を取り入れながら帰省後の子どもの様子を注意深く観察し、保護者とコミュニケーションをとりながら家族の意思を確認し、不安に対する解決策を一緒に考え支援するようにしています。子どもに関係する施設行事や学校行事の案内を送付し、子どもと保護者の関係調整に取り組んでいます。家庭の事情によって難しい面も多いケースもありますが、今後も対応方法を検討しながら取り組んでいくことを課題として捉えています。

(12) 親子関係の再構築支援

①	A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b	A40
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○	

【コメント】

家庭支援相談員を中心に現状課題を明確にし、社会資源等を活用しながら計画を立て支援に繋げています。計画の内容は児童相談所やグループ担当職員へ周知し、適宜実施状況の共有を図りながら連携して家族支援に取り組んでいます。一時帰宅や外泊については事前許可制の仕組みがあり、ケースごとに協議の上で決定しています。

(13) スーパービジョン体制

①	A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b	A41
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定期的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。		
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。		
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。	○	

【コメント】

スーパーバイザーは外部の研修に参加し、施設全体として職員一人ひとりの支援技術の向上を図っています。職員間の風通しはよく、いつでも相談できる体制を確立しています。基幹的職員は職員の傷つきやバーンアウトに注意を払い、子どもとの問題を抱え込みすぎないよう助言や協力をし目線を広げるよう取り組んでいます。課題に対して真摯に向き合いながら改善方法を施設全体で考え、技術やケアの専門性の向上を図りたいとの思いが窺えます。

社会的養護施設第三者評価 利用者調査結果（施設種別：児童養護施設）

評価機関名 特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構

事業所名称	太陽寮
-------	-----

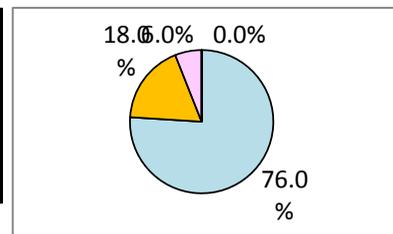
調査の対象・方法	<p>対象：児童養護施設 太陽寮</p> <p>方法：調査用紙を配布し、事業所に回収ボックスを設け、評価機関が回収。</p>
----------	--

調査実施期間	平成29年8月17日～29年12月28日
--------	----------------------

アンケート結果平均

利用者総数（人）	35
調査対象者数（人）	29
有効回答数（人）	29
回収率（％）	82.86

はい	224件	76.0%
どちらとも いえない	53件	18.0%
いいえ	17件	6.0%
無回答	0件	0.0%



総 評	<p>質問項目中、「施設の大人の人たちはこの施設の決まりや約束ごとをわかりやすく教えてくださいませんか?」、「施設の大人の人たちは、あなたの良いところをほめてくれますか?」、「施設の大人の人たちは、あなたが成長していくために取り組む目標、あなたの将来（学校や仕事）について話を聞いてくれますか?」については、9割以上が肯定的な回答であった。一方で、「施設の大人の人たちは、あなたがいやがるよび方をしたり、命令したり、乱暴な言葉を使ったりしないで接してくれますか?」、「あなたには、自分の気持ちやあなたの考え話しやすい施設の大人の人がありますか?」、「ここでのくらしでは、あなたのプライバシー（人に知られたくないことや自分の居場所）は守られていますか?」には大半が肯定的な回答であるものの1割程度の否定的な回答もあり、引き続き注意深く見守り、支援していくことが望まれる。また、「食事の時間は楽しみですか?」の回答に4割程度がどちらともいえないとの回答があり、その原因を探り食事の時間が楽しみとなるよう工夫することが望まれる。</p>
気になったコメント （抜粋）	<p>・乾燥機を修理してほしい。（*今回のアンケート調査において、アンケートのコメント欄への記入は少数であった。）</p>

社会的養護関係施設 第三者評価 利用者調査結果（児童養護施設用）

事業所名称	児童養護施設 太陽寮	有効回答数	29 人
-------	------------	-------	------

No	質問項目	回 答	回答数	(%)
1	この施設は、くらしやすく、安心して生活できますか？	はい		22 件 76 %
		どちらともいえない		6 件 21 %
		いいえ		1 件 3 %
		無回答		0 件 0 %
2	食事の時間は楽しみですか？	はい		16 件 55 %
		どちらともいえない		11 件 38 %
		いいえ		2 件 7 %
		無回答		0 件 0 %
3	施設大人のの人たちから、あなたは大切にされていると感じますか	はい		21 件 72 %
		どちらともいえない		8 件 28 %
		いいえ		0 件 0 %
		無回答		0 件 0 %
4	施設の大人のの人たちはこの施設の決まりや約束ごとをわかりやすく教えてくださいませんか？	はい		28 件 97 %
		どちらともいえない		1 件 3 %
		いいえ		0 件 0 %
		無回答		0 件 0 %
5	施設の大人のの人たちは、あなたがいやがるよび方をしたり、命令したり、乱暴な言葉を使ったりしないで接してくれますか？	はい		24 件 83 %
		どちらともいえない		1 件 3 %
		いいえ		3 件 10 %
		無回答		0 件 0 %
6	施設の大人のの人たちは、あなたの良いところをほめてくれますか？	はい		26 件 90 %
		どちらともいえない		3 件 10 %
		いいえ		0 件 0 %
		無回答		0 件 0 %
7	施設の大人のの人たちは、あなたが成長していくために取り組む目標、あなたの将来（学校や仕事）について話を聞いてくれますか？	はい		26 件 90 %
		どちらともいえない		3 件 10 %
		いいえ		0 件 0 %
		無回答		0 件 0 %
8	あなたには、自分の気持ちやあなたの考え話しやすい施設の大人のの人がいますか？	はい		24 件 83 %
		どちらともいえない		1 件 3 %
		いいえ		4 件 14 %
		無回答		0 件 0 %
9	ここでのくらしでは、あなたのプライバシー（人に知られたくないことや自分の居場所）は守られていますか？	はい		15 件 52 %
		どちらともいえない		4 件 14 %
		いいえ		5 件 17 %
		無回答		0 件 0 %
10	ここでのくらしで「いやだなあ」「こまったなあ」と思ったときに、施設の外の大人のの人にも話すことができることを知っていますか？	はい		22 件 76 %
		どちらともいえない		6 件 21 %
		いいえ		2 件 7 %
		無回答		0 件 0 %